

議 事 録

会 議 名	第 2 9 回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	平成 2 7 年 2 月 2 5 日 (水) 午後 2 時 ～ 午後 4 時	
開 催 場 所	宇都宮市教育センター 1 階 コミュニティホール	
出 席 者	環境審議会 委 員	郷間康久委員, 小平美智雄委員, 舟本肇委員, 大久保忠且委員 (会長), 伊藤直次委員, 竹澤正樹委員, 芝野三郎委員, 高橋啓子委員, 朝田尚宏委員, 三宅徹治委員 (副会長), 北村里美委員, 黛美紀男委員, 江島ゆり子委員, 久我臣仁委員
	欠 席 者	五月女伸夫委員, 前橋明朗委員, 黒沢良夫委員, 近澤幸嗣朗委員, 篠崎實委員, 金枝右子委員
	事 務 局	環境部長, 環境部参事, 環境部次長, 環境部副参事, 環境政策課長, 環境保全課長, 廃棄物対策課長補佐, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 交通政策課長, 環境政策課エコエネルギー担当主幹, 環境部総務担当主幹, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員 6 名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者 0 名, 記者 0 名	
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第 2 次宇都宮市環境基本計画等の改定・策定に係る環境都市像の案について ⇒ 了承</p> <p>(2) 第 2 次宇都宮市環境基本計画の改定及び (仮称) 宇都宮市地球温暖化対策実行計画の策定に係る中間答申書 (骨子) について ⇒ 議論を踏まえた修正等については, 会長, 副会長に一任し, 後日中間答申書を市長へ提出する。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	

発言要旨

議事（１）「第２次宇都宮市環境基本計画等の改定・策定に係る環境都市像の案について」

会長	議事の（１）「第２次宇都宮市環境基本計画等の改定・策定に係る環境都市像の案について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	それでは議事に入ります。議論のポイントとしては、「社会像ごとの課題の整理」について追加すべきことはあるか、各課題がクリアされた状態について追加すべきことや視点はあるか。「宇都宮市が目指す環境都市の姿」について加えた方が良いご意見があるか、市民が共感しやすい表現であるか、環境都市像のイメージについて改善した方が良いところがあるかなどについて、ご意見、ご質問をいただければと思います。
委員	まず、参考資料について議論したいと思います。参考資料の１ページ目「①低炭素」、２ページ目「循環利用」について何かありますか。
委員	１点目に、資料１の日程表を見ると、昨年１１月にワークショップを実施したとありますが、ワークショップではどのような意見があり、この資料にどのような形で反映がされているのでしょうか。
委員	２点目に、これからの環境都市を考える上で、現代のキーワードを盛り込んだ夢のある資料になっていると思いますが、その中で見えてこない部分にごみの問題があると思います。ごみや廃棄物の処理に関する視点は、どのような形で反映されているのでしょうか。もし反映していないのであれば、未来の宇都宮の環境都市では解決しなければならない視点として、ごみや廃棄物の処理についても盛り込む必要があると感じました。
委員	３点目に、宇都宮市の特徴として、「なんでもできる」都市像や、これから目指す都市の形「ネットワーク型コンパクトシティ」、本市独自の「もったいない」という象徴的な活動があるかと思いますが、宇都宮市の特徴はこれらのプラスの視点だけではなく、マイナスになる視点もあると思います。宇都宮市には、大規模な工業団地が３つありますが、工業団地がない自治体と比べて、環境問題の原点になる大気、水質、土壌、騒音などの公害問題について、環境都市を目指すうえでは避けられないと認識しております。このような視点でのご意見がワークショップや環境政策課内での議論、懇話会などでございましたら紹介してください。
会長	御質問が３点ありましたが、まず、ワークショップについてはいかがですか。
事務局	ワークショップにつきましては、中高生ならびに青年層の方々にご参加いただきました。その中でいただいた様々な施策等に対するご意見については、先ほど説明いたしましたマトリックス表の中に溶け込ませています。特に、宇都宮市が、将来、緑豊かな宇都宮になってほしい、世界に誇れるような宇都宮になってほしいなど、インパクトある言葉をいただいたところです。
事務局	２点目のごみの観点については、参考資料１の２ページ目社会像ごとの課題の整理②「循環利用」にございますとおり、前期計画の取組評価やアンケート調査から、ごみの資源化や廃棄物の削減、リサイクルの推進などを課題として捉えています。これらは、今後、将来にわたって対応していく必要がありますので、課題がクリアされた状態として、別紙１の６ページに盛り込んでいるところであります。
事務局	３点目のマイナス面につきましては、工業団地を有する本市は、大気環境の改善は必要であろうかと思っておりますので、課題を解決した状態に盛り込みながら、環境都市像をつくっていきたいと考えております。

委員 ごみの一例として、別紙1の3頁ステップ1の「②循環利用」に、「事業系ごみの減量化・資源化」とあります。最終的には「循環」でありますので処理とは違うと思います。処理という部門も、未来の宇都宮ならではの施策をもっているべきだと思いますし、公害問題が発生する可能性があります。工業団地を抱えている都市だからこそ、目標値の設定などが必要であると思います。

 また、資料1の7ページの環境都市像（イメージ案）は素敵だと思いますが、このようなエコプラセンターのように宇都宮ならではのゴミ処理施設をもっているわけですから、市民がこのイメージ図を見て都市像を想像することになるとと思いますので。かっこいいゴミ処理施設や、空気を汚さない施設、循環によって効果が出る施設などをイメージ図に描いていただきたいと思います。環境都市としてのポイントを絞って、市としてどのように配置し機能させていくのか、描いていただきたいと思います。また、象徴的な施設も入れていく必要があると思います。

事務局 環境分野における技術革新は目覚ましいものがあり、これまでよりも優れた処理技術や処理手法がどんどん出てくる可能性がありますので、宇都宮市も取り入れられるかどうか、委員のご指摘も踏まえながら、対応について検討していきたいと思います。

会長 工業団地の問題はあまり出てきませんでした。ご指摘のとおりだと思います。他にご意見はございますでしょうか。

委員 問題、現状、課題がよく整理されているかと思いますが、課題を数えますと、数十くらいになるかと思いますが。これらを同時並行的に取り組むことは難しいと思いますが、優先順位は考えられているのでしょうか。

事務局 26年度は2050年頃の環境都市姿を描き、市民、事業者と共有を図りたいと思っておりますが、27年度は、環境都市の実現に向けて、2020年、30年、50年頃にはこうなっていきたいというロードマップを描きながら、そのために必要な効果的な施策事業を考えてまいります。その過程におきまして、優先化・重点化も考えていきたいと思っております。

委員 おそらく、市として取り組まれる事業となりますと、たとえば、LRTなどの大きな公共事業が優先されるような気がしていますが、そういう観点からの優先順位を考えているのでしょうか。

事務局 今後の環境を考えると、街づくりすべての分野に環境問題は関わってくると思っています。環境だけ、LRTだけではなく、様々な分野が両立できるような形で進めていきたいと考えています。

委員 交通の事業や施策は環境政策課の担当ではないのですね。

事務局 はい。

委員 分かりました。

会長 他にいかがでしょうか。

委員

環境基本計画改定は、全国から注目されるような取組があつて欲しいと思います。そこで、私から3つ提案したいと思います。

1つ目に、別紙1「社会像ごとの課題の整理」の3頁ステップ1「②循環利用」に「地域循環圏」が書いてあります。これはエネルギーセキュリティのことだと思いますが、これをどう評価するかはまだまだ確立されていないと思います。1年くらいかけて研究し、宇都宮スケールをつくり、それをアピールするのも、一つの手法だと思います。

次に、資料1の5ページに記載してある「宇都宮市の特徴」についてです。全国にアピールするのに大事な切り口だと思っています。農業王国宇都宮の代表として、トマトやにっこりがあります。大谷地区の地下冷水を利用した夏いちごも世界的な環境基準をクリアした農法により生産している百合を生産している栃木県内最大の農家もあります。

これらも地域資源だと思いますので、もっともっとアピールしていくべきだと思います。

3つ目は、6ページの一番下に、本市の目指す環境都市の姿があります。一番の肝になりますが、「うるおいのある」と「心豊か」は意味が重複しており、むしろ、入れて欲しい言葉は、「人の集まる街」という言葉です。例えば、「もったいないの心で環境への負荷を抑える街」、それから、「こころ豊かに健康で充実した暮らしを享受できる街」、そして「人の集まる街」です。「人の集まる街」は私の好きな言葉で、宇都宮を全国に発信できたらと思っています。もう少しかっこよくまとめて欲しいと思いました。

事務局

ありがとうございます。只今のご提案のうち、1点目・2点目については、これから施策事業を考えていく中で検討していきたいと思っています。

3点目のご提案である「人の集まる街」につきましては、どのような形で反映できるか、検討させていただければと思います。

会長

他にいかがですか。

委員

先ほど、他の委員から提案がありましたが、私も環境基本計画をつくるだけでは、他の自治体と似たようなことになってしまうと思いますので、自治体ができる範囲で取り組んでいくことが重要であると思っています。地方自治法である程度制約があると思いますが、横だし条例のように、国の規制の許される範囲で取り組めることがあると思います。最近、廃棄物処理業者の方々と仕事で話す機会があるのですが、産業廃棄物処理法は悪法で、なんとかできないものかという相談を受けております。なぜ同じ木屑でも一般廃棄物と産業廃棄物で別々に処理しなければならないのか、とよく言われます。宇都宮市が環境都市を目指すのであれば、全国に宇都宮モデルを発信できるような政策提言をしていただきたいと思っています。そのような取組みが今後、「人の集まる宇都宮」を実現するためにも必要ではないかと思っています。

事務局

ご提言ありがとうございます。私どもも今回の計画改定にあたりましては、そのような先駆的な取組を出せば良いなと思っています。来年度は、計画に盛り込む施策事業を具体的に考えていく予定でございますので、最大限に検討して工夫してまいりたいと考えております。

会長

次に、参考資料1の③「調和と共生」、④「推進基盤」に移りたいと思います。御意見を伺いたいと思います。

委員	<p>「生物多様性」の言葉の意味を知っているかどうか、前回の審議会で議論になりましたが、「生物多様性」は、障がい者やご老人など、いろいろな人たちが、安心して暮らせるという意味や動植物や虫たちみんなが豊かに暮らせるという意味があると思います。</p> <p>そこで、資料1、7ページの環境都市像（イメージ図）は、とてもきれいな絵で、緑が溢れておりますが、生物が息づく感じが感じられない印象を受けます。テーマの分け方も生活空間、社会システムに分けられていて、生物の命の感覚が抜けているように思います。例えば、鬼怒川の流れの中には、鯉が跳ねているなど、生物多様性が感じられる絵にした方が良いかと思います。</p>
事務局	<p>本当にありがとうございます。イメージ図は今後さらにブラッシュアップをしていき、誰からもこのような都市になると良いなと共感していただけるようなイメージ図にしていきたいと思います。</p>
会長	<p>確かに、大変良いご指摘だと思います。</p>
委員	<p>一つお伺いしたいのですが、④の「推進基盤」のまとめの二つ目に、「環境、経済、社会が統合的に向上させていく視点が重要」とあります。現在、国は「地方創生」を打ち出しており、その背景には「限界集落」や「消滅都市」の問題があると思いますが、宇都宮市でもこのような問題はあるのでしょうか。もし、関連があるようでしたら「地方創生」の言葉を入れておいても良いと思いました。経済面や宇都宮の特徴を関連付けながら、「地方創生」のような事業を活用し、環境施策を進めていっても良いと思いました。</p>
事務局	<p>「地方創生」につきましては、勉強不足でございますので、あらためて紐を解いてみて、文言を入れられるかどうか検討してきたいと思います。</p>
会長	<p>冒頭の挨拶で申し上りましたが、「地域循環圏」には地方創生の考え方が入っていると思います。</p>
委員	<p>「調和と共生」について質問したいと思います。農協では都市農業も考えているため、田舎と都市に地域区分はできない状態にありますので、都市農業の考え方にも配慮いただきたいと思います。</p> <p>環境都市像のイメージ図をみると、緑が豊かな印象を受けますが、山間部では、いのしし被害の問題があります。宇都宮市にも協力いただき、駆除しておりますが、被害が膨大なもので非常に困窮している状況です。</p> <p>また、河川におきましては、カワウが鮎やウグイを食べてしまい、魚が減っています。このため、鬼怒川で魚釣りをする人が少なくなっています。このような現状を皆さんにも御理解いただきたいと思います。</p> <p>都市緑化については、栃木にはこの地ならではの植物や生態系がありますが、庭木などに外来種が使われています。土地に根ざした動植物配慮した、都市空間を整備していただきたいと思っています。</p> <p>また、宇都宮市内では、約30品目の青果物を作っていますが、軟弱野菜やりんご、かんぴょう、ブロッコリーなど、多くの種類を宇都宮の農業で生産されていることを御理解いただきたいと思います。</p>

事務局	<p>都市部と農村部について、現在、宇都宮市では「ネットワーク型コンパクトシティ」を推進し、ある程度、都市の機能を集約していこうとしています。ある程度このような都市が形成されていきますと、都市部と農村部、地域拠点といったメリハリがついてくると思います。そのような中、農村部と都市部の「調和と共生」は非常に重要だと認識していますし、そのようなまちづくりが必要だと考えておりますので、環境都市像にも盛り込んでいきたいと思ひます。その他の具体的な御提言につきましては、今後、施策事業を考えていく中で、検討していきたいと思ひます。</p>
会長	<p>他にございませんか。</p>
委員	<p>私も農業者のひとりですが、「農業」というキーワードに都市と農村について、で今、様々な切り口が出ています。自然環境を維持したり、新しく作り上げたりするに、実は農業が一役を担っています。耕作地を作りますと環境や生態系が乱れている面もありますが、農薬等の使用について環境への配慮をするなど、農業者の努力によって自然環境が守られています。青々とした稲穂を見て感動する田園風景や景観などを守っているのは農業者であり、農村部と都市部が共存しているのが宇都宮市の特徴でありますので、今後も大切にしたいと思ひます。今、農業は厳しい経営状況にありますが、自分たちの生活に加え、環境や暮らしの景観に貢献する業種であることを、環境基本計画のどこかに位置づけても良いのではないかと思ひました。</p>
会長	<p>確かに私たちも、生物多様性の教育をしようとする、農業体験のある子どもたちが非常に少なくなっていると感じています。街中に住んでいる人たちにも理解してもらうことは大切だと感じています。他にはありますか。</p>
委員	<p>資料1の5ページ宇都宮市の特徴に関連しますが、「自転車の街」についての意見です。私は県外出身ですが、宇都宮は本当に自転車人口が多いという印象がありコンパクトシティ化が進むにつれて自転車人口がさらに増えると思ひます。全国に情報発信するにあたっては、宇都宮の特徴として自転車を打ち出して欲しいと思ひます。自動車依存型によるという欄にEVや小型モビリティの記載がありますが、自転車を打ち出すのは良いと思ひます。</p>
事務局	<p>貴重な御提案をありがとうございます。自転車の施策につきましては、本市の重点施策として推進しています。自転車のまち推進計画につきましては、来年度、計画の改定時期を迎え、その準備として、今年度基礎調査を行っていますので、その結果を環境基本計画に反映できるように連携して進めていきたいと思ひます。</p>
委員	<p>担当課が異なるため回答できない点もあると思ひますが、環境分野としてこれだけは筋を通していきたいというのが見えてこないですイメージ図も本当に達成できるのかなと、感じました。また、資料1の3ページの「④推進基盤」に、「市民と事業所と連携した（中略）環境保全活動の推進が必要」と書かれています。事業者は品質等のISOについては、とても活発に取り組んでいますが、環境に関しての国際的なISO認証取得や、宇都宮市と商工会議所によるエコうつのみや21の取組は、まだ不十分な事業者が多々あると思ひます。環境都市を目指すなら、もう少し取り組んで欲しいと感じました。</p>
事務局	<p>今回、環境都市像を描くにあたっては、様々な視点で課題を捉えるよう努めてきました。環境分野は、他の分野と切っても切り離せないような分野ですので、今後、各分野と連携・意見交換しながら環境都市像をブラッシュアップしていきたいと思ひます。また、エコうつのみや21などの具体的な施策事業につきましても、来年度、メリハリをつけながら何に優先的、重点的に取り組むかなど検討していきたいと思ひます。</p>

委員	<p>参考資料1の3ページ「③調和と共生」の地域特性の欄に宇都宮市の特徴がいろいろ出ています。宇都宮市は、国内最大級の内陸型工業団地を有する工業都市でもありますが、生産活動を行う場所などの適正化はこれからも図らなければならないと思います。市でも立地の適正化計画の検討に入っていると思いますが、その視点を「調和と共生」に入れてもいいのではと思いました。</p> <p>また、本市が目指す環境都市の姿、キャッチフレーズについてですが、長い印象を受け、一般市民がこれを覚えられる人はあまりいないと思います。目指す姿としてはこれでいいのかもしれないのですが、少し分かりやすい、一言でアピールできるような、例えば「エコフルタウン豊田」や「農業王国宇都宮」のようなキャッチフレーズを作って、使い方を分けるなどして、市民に受け入れられやすいよう表現を検討してほしいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。土地の適正管理については、「調和と共生」の地域特性の中で、農地などの適正管理について触れていますが、先ほどの御意見も反映できるのか検討していきたいと思います。都市像のフレーズについては、どこの都市のことか分かる特徴、「もったいない」という言葉を入れながら、全体を包含した表現として考えてみました。先ほど若干長いのではというご意見もありましたので、再度検討し、ご意見をいただきたいと思います。</p>
会長	<p>都市像については、「もったいないの心」が普及すれば、環境負荷は抑えられるので、次の「環境への負荷を抑えながら」を抜いても良いのかと思います。</p>

議事（2）

第2次宇都宮市環境基本計画の改定及び（仮称）宇都宮市地球温暖化対策実行計画の策定に係る中間答申書（骨子）について

会長	<p>次に、議事（2）第2次宇都宮市環境基本計画の改定及び（仮称）宇都宮市地球温暖化対策実行計画の策定に係る中間答申書（骨子）に移ります。</p> <p>中間答申案について、皆様から御意見いただければと思います。中間答申に付け加えるべき視点やご意見があればお願いします</p>
委員	<p>資料2ページの（1）に「平成27年度をピークに人口減少が始まり」とありますが、人口減少対策問題では平成29年度と出ていませんでしたでしょうか。正誤確認をお願いします。</p>
事務局	<p>大変失礼しました。29年度が正しい年度ですので資料を訂正します。</p>
委員	<p>2ページの（2）の最初ですが、少子・超高齢社会は若い人たちが少なく、高齢者が増加する社会です。宇都宮市も年配の方にやさしい環境が整いつつあると思いますが、今後さらに高齢者が増えることを考えますと、その辺を加味した政策も取り入れていただきたいと思います。先ほど、別紙1、5頁の宇都宮市の特徴の中に子育てしやすい街として全国第2位であると明記されておりましたが、子どもを育てやすい環境と高齢者が住みやすい環境づくりが必要かと思います。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。子育てしやすい街ということで宇都宮市はPRしていますので、そういった点を充分考えつつ、施策事業等でも環境面において何ができるのか検討しながら進めたいと思います。</p>
委員	<p>市民等に周知・啓発するにあたり、自治会回覧による周知啓発などの手法が考えられます。自治会との連携が必要と思いますが現在の加入状況について把握していますか。</p>
事務局	<p>自治会加入率ですが、平成26年4月現在、67.3パーセントとなっております。</p>

委員	<p>そうすると、4軒に1軒くらいは入っていないということですね。</p> <p>子どもたちの貧困は、大変問題になっております。環境問題を考える上で、各家庭のあり方や、街の関わり方は非常に重要で、独居老人や自治会に関わっていないお宅に市の方針等をどのようにアピールしていくのでしょうか。行政が様々な事業を推進する上では、周知や関係者との連携が、非常に大事であると思いますが、そのような情報が届きにくい家庭に対して、宇都宮市が何を考え、どのように巻き込んでいこうとしているのかお聞かせください。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。周知方法としては広報紙やホームページのほか、通信技術が進んでいますので、携帯電話、スマートフォンにアクセスできるようにしたり、地域に出向いていく出前講座を実施するなど、いろいろな方策を考えながら周知啓発に取り組んでいきたいと思っております。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
会長	<p>議事（1）、（2）のご意見等を踏まえて、中間答申書を作成し、3月中に市長に提出することになっております。今後の修正につきましては、私と副会長に一任していただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>— 異議なし—</p>
会長	<p>他にご質問はございませんか。</p> <p>—異議なし—</p>
会長	<p>それでは、「4. その他」に移ります。</p> <p>委員の皆さんから何かございますか。</p> <p>（意見なし）</p>
会長	<p>事務局から何かありますか。</p> <p>（連絡事項の説明）</p>
会長	<p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、「第29回 宇都宮市環境審議会」を閉会いたします。</p>